

1 会議の名称 岐阜県立岐南工業高等学校運営協議会（第3回）

2 会議の構成 学校運営協議会委員

磯野靖彦	濃尾電機株式会社	取締役
後藤潤一	塩谷建設株式会社	工事部課長
正村美里	岐阜県美術館	副館長兼学芸部長（ご欠席）
透千保	フリーアナウンサー	（ご欠席）
松尾康史	P T A会長	（ご欠席）
山口禎一郎	山口鋼業株式会社	専務取締役

（委員名は五十音順）

学校側

堀修	校長
樋口高広	教頭
安江博	教諭（教務主任）
古家幸司	教諭（生徒指導主事）
東松宏明	教諭（進路指導主事）
三輪照導	教諭（工業部長）
福永繁隆	教諭（地域の担い手育成事業担当）

3 会議の目的 学校運営・教育内容等について地域社会や保護者等から幅広く意見を聞き、その支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和3年2月9日（火） 12時30分～16時30分
岐南工業高等学校 体育館および校長室
委員3人、学校側7人が出席

5 会議の概要

- 課題研究発表会、地域産業担い手育成総合戦略事業報告会参観
- 本校教育活動の報告
- 意見交換、次年度への提言等

（教務主任より）

・ 4月からの学校の状況を報告。

（生徒指導主事より）

・ 生徒の登校の状況、生活の様子などの状況について報告。

- ・頭髪に関する校則見直しの検討経緯と検討の進め方について現状報告。

(進路指導主事より)

- ・今年度の求人状況を報告（求人数 1,896 名、求人倍率 8.6 倍）。
- ・理容美容業界の求人は激減したが、工業系企業からの求人は増加。
- ・3年生の就職の内定状況と進学者の合格状況について説明（進路決定状況は概ね良好）。

(工業部長)

- ・コロナ禍による、キャリア教育やインターンシップ等の行事中止について説明。
- ・学科ごとに校内でできる取組の実施、学校ホームページでの発信を報告。
- ・高校見学会を3日間にわたり実施。感染症対策のための様々な制限により、中学生の体験機会が無くなったため、工業高校の魅力が伝わりにくい状況であったことを説明。

(地域の担い手育成事業担当)

- ・生徒の課題研究発表資料と、地域産業担い手育成総合戦略事業に参加した生徒へのアンケート結果を説明。
- ・「地元の企業を知る」「地元企業に就職をする」「3年後の離職率を減少させる」という目的で、事前アンケートと事後アンケートの結果を比較し、目的の達成状況について説明。

6 ご意見等

- ・コロナ禍で大変な状況にあり、様々な業務が増えた中で工夫をして学校運営していることは理解している。
- ・頭髪の校則見直しについて、ツーブロックが特に問題であるとは思わない。就職試験においては、外見より内面を見て判断するという流れになりつつある。第一印象がどうかではなく、個性を尊重しながら人間性を見るという方向性である。
- ・奇抜な髪型は良くないが、ヘルメットをかぶって作業する業界では、髪型は特に目立たない。業界によって判断が分かれるのではないかと思う。
- ・髪型の指導も大事であるが、それよりも自分の意見をはっきり言える人材が求められている。個性を伸ばすことを意識した教育を進めてほしい。
- ・コロナ禍で様々な活動に制限があり、学業以外の楽しみが削がれている状況だと思います。仲間が作りにくい状況であり、部活動の大会が中止となったり、活動そのものに制約が加わったりするなど、例年以上にメンタル面のフォローが学校側に求められている。また、家庭においてもコミュニケーションが円滑に取れていない場合があるので、学校に居場所があると不登校生徒も減少にもつながると思う。
- ・入学を決めた時に期待していたことができないことは、新入生への影響が大きいと思う。
- ・資格取得のための受験機会は減ったのか。
→ (工業部長) 従来、前期日程で実施していた資格試験は中止となったものがあるが、後期日程については実施されているものが多い。
- ・コロナ禍だからこそ、本校の強みが出せる部分もあると思う。ものづくり関連企業からの求人が減らないことから、人材育成に注目されていることがわかる。本校に入学することで、地元企業から求められる人材として就職できるなど、企業の意向を生徒に伝えることでモチベーションの向上に繋がるはずである。自分たちは企業からとても求められているのだということを自覚させるとよい。これは専門高校ならではの強みであり、ネガティブな考えを払拭させてほしい。
- ・「岐阜の魅力は？」という問いに対し、多くの人が自然の豊かさを全面に出して答える傾向がある。この傾向は高校生だけではないが、自然の他にも多くの魅力があることに気づいていないことが多い。企業経営の立場からすると、水質や水量、地盤の安定などにより、安全な経営ができる場所であると言える。関東や関西などへのアクセス等、地の利の面でも良いことは、老舗企業が多いことからわかる。これらの魅力を生徒に伝えてほしい。
- ・企業の経営者にはユニークな考えを持たれている方が多い。近頃はコロナ禍で出張が激減しており、講師依頼すれば喜んで協力してくれる方も多いと思う。そういった人材を活用して、生徒

に話をしてもらうことで「こんな企業で働きたい」と思えるようにする働きかけも有効である。

- ・岐阜市にはコンパクトシティとしての魅力がある。市内の企業について、良いイメージが持てるよう情報提供し、教育を進めてもらいたい。
- ・コロナ禍により、校外での活動に制限があるという現状は理解できる。先日電気科で実施されたように、企業の方に来校していただき、校内で出前授業を実施するのは有効な方法だと思うので、一方策として検討に加えてほしい。
- ・自分の職場では修理業務等を請け負っており、現場で作業を行う場合と職場に持ち帰って作業を行う場合がある。学校で修理を行うなど、高校生に実際の仕事の様子を見てもらうことも可能であると思う。企業に相談すれば、他にも同様の取組が実現できるかもしれない。
- ・課題研究で、学科の枠組を超えて研究することも面白い取組だと思う。他学科と同じ授業時間に研究することは難しいかもしれないが、同じテーマについて複数の学科が異なるアプローチで研究・発表することは、互いに良い刺激になるのではないかと思う。
- ・「特化する」ということは、「ずば抜ける」ことである。到達目標に向けて取り組む中で、何かにずば抜けていける生徒を育てることが大切である。そのような生徒を多く育てられれば、必然的に本校は高い評価を受けるようになり、企業からの注目度もさらに上がる。その評判は中学生の保護者などにも伝搬していく。ぜひ地元企業と協力し、「ずば抜けた」生徒を育ててほしい。

(校長)

- ・学校の取組について、ホームページで発信しているが、その内容は中学生にも届けたいとの思いがある。中学生やその保護者がホームページを見る機会を増やす必要があるが、なかなか思うようにいかないのが現実である。学校の魅力を中学生に伝達するためにも、ぜひ中学校の教員にアプローチして理解してもらう必要がある。

7 会議のまとめ

- ・前年度までの学校行事について、コロナ禍での実施可否や実施規模等についての検討を行い、可能なものは安心安全に配慮して実施してきた。これらの対応について理解いただいたので、今後も同様に進めていく。
- ・本校に入学した生徒たち（特に1年生）の入学当時の思いが乖離しないよう、イメージを崩さずに学校生活が送れるよう、学業や部活動、ものづくりなどのあらゆる場面で生徒が活躍する機会をつくれるよう学校運営を進める。
- ・ホームページでの情報公開については、これまで通り頻繁に行っていく。文字数や文字サイズ、誰に向けての発信なのか等の改善事項については、発信担当で意識を共有して制作していく。
- ・岐阜県の魅力について、普段生徒たちが気付いていない内容が豊富にあることを、授業や実習、行事など様々な機会に情報発信するとともに、キャリア教育も推進する。また、企業との連携により、地元企業や地域産業の理解を深めるとともに、地元で働く良さについても伝えていく。
- ・工業高校として、ものづくりに関する大会や各種競技会への出場、資格取得に力を入れ、トップを目指す生徒を育てるような取組を推進する。
- ・課題研究の学科間での共通テーマ設定については、次年度の取組計画の中で検討する。
- ・中学校教員に工業高校への理解を深めてもらう方法を模索し、取組を推進する。